



宮司プレス 第二十二号

彦島八幡宮 宮司 ニュース

発行者 彦島八幡宮

宮司 柴田 宜夫

発行 平成三十年 一月 十一日

◇宮司の柴田です。今年初めての宮司プレスの発行です。しかも、前号発行から十一日目にしての発行の運び、幸先の良いスターであり、宮司プレスならぬ、宮司エキスプレス、高速特急の発行、月三回発行も夢ではないような勢いです。しかしながら、平成十八年六月から毎月一回の発行を心掛けた宮司プレス、本来であるならば、今月で百四十号のはずでありますから、遅れの累積は、十ヶ月、毎月発行への軌道修正の道のりは、険しいものがあります。発行の遅れの累積を披露(ひろう)しつつ、お待ちせしました、遅ればせながらと記述(きじゆつ)するのが、悪しきルーティンとなっておりますが、第百三十号の発行です。

◇毎年、その年の干支(えと)にちなんだ書初めをしています。平成二十六年の午年から今年で五年目です。「戌」を使った熟語、かなり苦慮(くりよ)しました。干支の漢字が難解(なんかい)なので、中国から伝わってきた時に、それぞれの干支に動物が配されたそうです。「戌」には、「犬」が配されました。当初は、「犬」を使った漢字を考えましたが、思

い浮かんだのは、「献」でした。ある方は、会社にも自分にも忠実に真心を捧げるのだと、「書初めは、貢献にしたよ」と仰(おっしゃ)っていました。私も、「献誠(けんせい)」にしようかなどと考えをめぐらせましたが、結局「戌(ほ)」に画数を二つ加えた、また、「戌(じゆつ)」に一つ加えた、「成」を使った熟語に落ち着きました。



◇「天成(てんせい)」と「直誠(ちよくせい)」と浄書(じようしょ)しました。私は、平成二年から、今は亡き、三輪惠泉(みわ けいせん)先生に師事(しじ)しました。惠泉の「泉」を戴きまして、「宜泉(ぎせん)」と名乗(なの)る弟子であります。毎週土曜日に、先生のお宅にお邪魔して、稽古に励んだものです。全盛期は、「半紙の漢字」、「色紙のかな」、「条幅(じようふく)」の漢字とかな、さらに、「ペン字」と月に五枚の作品を提出していました。毎月の提出締切りに追われつつ、月に三回ないし四回の先生宅の稽古で作品を仕上げています。もちろん、自宅での稽古も続けながらあります。冷静に考えて、一回目より二回目、三回目、さらに四回目に提出した作品が、上手になっていなければならぬはずですが。しかし、先生は、最終的には、一回目の稽古の作品を選ばれていました。私の二回目、三回目、四回目の作品は、自分の一回目の作品を越えられないのです。何故でしょうか。その稽古は無駄だったのでしょうか。それは、最初は、初めて目にするお手本ですから、少しでもそのお手本に近づこうと、未熟さゆえに謙虚に、ひたむきに稽古をします。しかし、少しこなれてくると、上手に書くことが欲がでて、未熟さゆえのひたむきさを見失ってしまうのです。先生に、そこを見透かされていたわけなのです。それが、いつしか、二回目、三回目

が選ばれ、ついには、四回目の作品が選ばれる

ようになると、なんだかすごく嬉しくなり、稽古が楽しくなりました。この「直誠」は、私の造語(ぞうご)ですが、まさに、「未熟さゆえのひたむきさ」こそ、真心であり、それを気づかせてくださった、今は亡き三輪先生の教えを思い出しながら浄書しました。「初心忘るべからず」に通じる真心、「直誠」であります

◇「天成」。辞書をくりますと、「人の手をくわえない自然そのもの、もつてうまれたもの、天性と同じ意味」とあります。私どもの身体は、船に魂(たましい)が乗っかっているようなものだそうです。したがって健康でなければ船は動きません。さらに、魂は、心の働きをつかさどるものだからです。少く、大袈裟ですが、心の修行をしなければ、順風満帆(じゅんぷうまんぱん)な航海を続けることが出来なくなります。心身共に健康でなければならぬわけです。前号に、吉見俊哉東京大学教授の唱えていらつしやる「二十五年周期説」のことを記載しましたが、今は、「衰退と不安の二十五年」の時期二十三年目にあたるそうです。そうであるならば、自分の持てる才能や特性を信じて、心身共に健康で、謙虚に慎み深い生活を心掛けることが大切です。宮司プレスの既刊号にも記述したことがあります、夏目漱石は晩年に、「則天去私(そくてんきよし)」と

いう言葉を残されました。大自然に身を委ね、私利私欲をかなぐり捨てて生きてゆく、まさに、「天成」ではないかと思ひ浄書しました。

◇前述の「二十五年周期説」、次の周期は、西暦二千二十年の東京オリンピック開催の年が起点となるそうです。今が、「衰退と不安」の時の踏ん張りどころです。勇気を振り絞り、一歩でも二歩でも踏み出せば、この「戊戌(つちのえいぬ)」の干支(えと)の字は、「成成(せいせい)」となるのであります。大願成就(たいがんじょうじゆ)となるのです。前号で、「戊戌」の干支は、「良いものは良い方向に導かれるが、悪いものはさらに悪くなる」と記述しました。「戊」は、「まさかり」を象(かたど)っていますので、悪いものは、刈り取って、全てが、良い方向へ導かれることを願うものです。「直誠」のひたむきな真心を忘れず、「天成」の慎み深い生活で、日々の営みが笑み栄えますことを心からお祈り申し上げます。

◇十二月の祭典行事報告

▼月次祭 *十二月一日、十五日

▼海士郷恵比須神社祈漁祭 *十二月三日

▼大注連縄おろし *十二月三日

▼朝粥会 *十二月二十一日

▼天長祭 *十二月二十三日

▼田の首八幡宮大注連縄おろし *十二月二十三日

▼正月臨時巫女説明会 *十二月二十三日

▼下関西ロータリークラブ奉納例会にて参拝 *十二月二十七日

▼貴布禰神社迎春準備 *十二月三十日

▼大祓式、除夜祭、守札等清祓式 *十二月三十一日

◇十二月の宮司の行事会議等活動報告

▼八幡宮関係団体

◇維蘇志会十二月例会 *十二月九日

◇彦島八幡宮リーグ(ソフトボール)役員会 *十二月十五日

▼山口県神社庁、同下関支部関係

◇下関支部幹事会 *十二月四日

◇身分詮衡委員会、役員会 *十二月十九日

▼下関西ロータリークラブ

◇例会 *十二月六日、二十七日

▼人権擁護委員

◇人権相談 *十二月七日(小月公民館)

◇啓発活動 *十二月九日(アブニール菊川)

▼その他

◇下関木鶏クラブ *十一月一日

※月刊「致知」読後の意見交換会

◇下関三井化学忘年会 *十二月十二日

◇彦島製錬忘年会 *十二月十四日